所長だより第８５号　　令和７年　１１月　２６日

希望の船

We　love　BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047　大津市浜大津５丁目１番７号
https://uminoko.jp/

「探究の旅」

【所 長　　川 岸　哲 也】

今年は、大阪・関西万博、国スポ・障スポと滋賀や関西を中心に大きな行事が執り行われ、滋賀県にスポットが当たることが多くありました。そんな中、「滋賀県」を他の都道府県の皆さまに紹介するにあたって、多くの場面で「うみのこ」を取り上げていただきました。フローティングスクール事業が滋賀県や滋賀県民にいかに根付いており、また、誇りに思っていただいているかということを改めて感じる年度となっています。

日頃、「うみのこ」に乗ってくる子どもたちを見ていますと、一様に大きな期待とちょっぴり不安の入り混じった感情が表情に表れているように感じます。「大きい船やなあ」「琵琶湖は広いなあ」という子どもらしい言葉がたくさん聞かれます。そんな子どもたちにとって、乗船校の先生方に計画いただく「本物体験」が、子どもたちの心に変化をもたらしていくように感じています。実際に見たり、聞いたり、触ったり、匂いを嗅いだりする直接体験の中で、学校ではなかなか感じることができない感動を味わう場面にたくさん出くわします。すくった琵琶湖の水の中で動くたくさんのプランクトン、港で採取した泥の中にごろごろと出てくる貝、琵琶湖の真ん中に浮かぶ島（実際は浮かんでいませんが）、琵琶湖の各所で透き通り具合の違う湖水、その一つ一つが、子どもたちの心を動かしていきます。そして、子どもたちは、好奇心いっぱいの目になっていきます。そのことが、更なる興味や関心を喚起し、子どもたちの「探究の旅」が始まるように思います。この旅を支えるものとして友達の存在があります。一般には信じにくいことですが、湖上で共に活動することが、初めて出会う子ども同士の距離を一気に近づけます。友達と交流する中で子どもたちはより深い考えにたどり着いていきます。また、同時に新しい疑問もたくさん生まれます。子どもたちの「探究の旅」は、「うみのこ」をおりた後も続いていきます。先生方の考えていただいている単元計画は、乗船前・乗船後も含まれています。学習の終末は「琵琶湖やふるさと滋賀に対する自分なりの考えを持ち、主体的に発信する」姿をイメージして、多くの学校が計画していただいているところです。

しかし、「探究の旅」は本当に学校の学習の終了と同時に終わるのでしょうか？今年の万博の滋賀県デイの会場や国スポの開会式において、「うみのこ」の歌『希望の船』が流れたとき、観客の皆さまから大合唱が起こったと聞いています。もしかすると、「探究の旅」は「うみのこ」に乗船した全ての人にとって、今も続いているのかも知れません。

フローティングスクールでは、子どもたちの探究的な学びを支えるため、学習を計画いただく先生方にホームページや打合せ会を通じて、新しいプログラムを提示したり、単元全体が見渡せる「学習モデル図」をお示ししたりするなど乗船校にできるだけ多くの情報提供をしています。また、教職員向け「うみのこ」見学会や研修会を開催することで、より充実した児童学習航海が実施していただけるよう努めているところです。